

【原著論文・総説・著書・記録集など】(2025年4月時点)

1. 薬剤誘発性便秘
山崎寛史、永野伸郎.
透析ケア (in preparation)
2. エボカルセト
永野伸郎、伊藤恭子.
腎と透析 (増刊号「腎疾患治療薬 フロントライン」) (in preparation)
3. 透析患者における高リン血症治療薬の現状と展望 ~テナバノル塩酸塩(オゼベル錠®)への期待~
永野伸郎.
秋田腎不全研究会誌 (in press)
4. 腸内細菌叢のバランス異常と腸管リン吸収
永野伸郎.
腎と透析 (in press)
5. テナバノル塩酸塩の薬理学的特性ならびに高リン血症薬物療法の今後の展望
永野伸郎.
臨床透析 (in press)
6. 腸内細菌を整えれば腎機能低下が抑制されるってホント?
永野伸郎、筒井貴朗.
月刊薬事 67(3):522-526, 2025.
7. 群馬県の慢性透析患者の現況 -2022年末のデータ解析結果-
永野伸郎、伊藤恭子、筒井貴朗、安藤哲郎.
群馬医学 (in press)
8. 透析患者における野菜および果物の摂取頻度と排便状況との関連
川田彩乃、藤本裕子、近藤昭之、鶴見 希、飯塚乃子、樋熊瑠美、杉本明美、長野一幸、筒井貴朗、伊藤恭子、安藤哲郎、永野伸郎.
群馬医学 (in press)
9. 透析患者における口腔内乾燥状態の実態 ~患者自身の自覚および機器による測定~
藤本裕子、川田彩乃、近藤昭之、鶴見 希、飯塚乃子、樋熊瑠美、高橋佑介、長野一幸、筒井貴朗、伊藤恭子、安藤哲郎、永野伸郎.
群馬医学 (in press)
10. テナバノル塩酸塩は透析患者における血清リン管理目標値の達成割合を増加させ、リン吸着薬の減量も可能にする
野原 悅、中島春乃、野原ともい、中北 朋、安部 望、永野伸郎.
医学と薬学 81(12): 631-639, 2024.
11. Comparison of serum alkaline phosphatase levels between two measurement methods in chronic hemodialysis patients in Japan: involvement of ABO blood group system and relationship with mortality risk.
Nobuo Nagano, Ayaka Tagahara, Takahito Shimada, Masaaki Miya, Noriko Tamei, Shigeaki Muto, Takaaki Tsutsui, Daiki Saito, Shusaku Itami, Tetsuya Ogawa, Kyoko Ito.
Clinical Experimental Nephrology 28:1300-1310, 2024.
12. Long-term treatment of evocacet in hemodialysis patients with secondary hyperparathyroidism: a five-year prospective cohort study in 147 Japanese patients.
Nobuo Nagano, Takayuki Ishikawa, Masashi Yamaguchi, Yuji Katsuragi, Masaaki Miya, Noriko Tamei, Shigeaki Muto, Takaaki Tsutsui, Tetsuya Ogawa, Kyoko Ito.
Renal Replacement Therapy 10:13, 2024.
13. 血液透析患者における痛みの薬に対する満足度 -アンケートによる実態調査研究-
南雲愛里、新井和樹、戸部友里愛、鈴木律工、金井一美、小澤正子、橋詰とき子、大塚恭弘、宮 政明、溜井紀子、武藤重明、筒井貴朗、伊藤恭子、安藤哲郎、永野伸郎.
腎と透析 97(6):914-920, 2024.
14. 認知症入院患者に対する栄養サポートチーム(NST)の介入と患者アウトカムとの関連
大塚修子、柳澤明子、鈴木絢子、小倉敦子、安藤哲郎、永野伸郎.
群馬医学 120:45-52, 2024.
15. 血液透析患者におけるリン吸着薬併用処方の実態 -リン吸着薬療法の限界-
永野伸郎、須永砂斗子、桂木雄司、島田貴仁、小林 肇、有吉勇一、田ヶ原綾香、宮 政明、溜井紀子、武藤重明、筒井貴朗、小川哲也、伊藤恭子.
腎と透析 95(4):555-559, 2023.
16. Association between phosphate binder pill burden and mortality risk in patients on maintenance hemodialysis: a single-center cohort study with 7-year follow-up of 513 patients.
Nobuo Nagano, Chie Zushida, Ayaka Tagahara, Masaaki Miya, Noriko Tamei, Shigeaki Muto, Takaaki Tsutsui, Tetsuo Ando, Tetsuya Ogawa, Kyoko Ito.
Clinical Experimental Nephrology 27:961-971, 2023.
17. Serum oxalate concentration is associated with coronary artery calcification and cardiovascular events in Japanese dialysis patients.
Yoko Nishizawa, Satoshi Miyata, Mai Tosaka, Eriko Hirasawa, Yumi Hosoda, Ai Horimoto, Kiyotsugu Omae, Kyoko Ito, Nobuo Nagano, Junichi Hoshino, Tetsuya Ogawa.
Scientific Reports 13:18558, 2023.
18. 第10章 CKD-MBD 10-3 保存期 CKD 患者において、活性型ビタミン D 製剤の投与は推奨されるか?
エビデンスに基づくCKD 診療ガイドライン 2023 pp. 107-108 日本腎臓学会編集(東京医学社)
CKD 診療ガイドライン改訂委員会 永野伸郎(SR 委員)
19. 透析患者の血清亜鉛値と生命予後との関係: 3年間の単施設コホート研究.
永野伸郎、大塚修子、村田優香、大塚恭弘、齊藤文良、大澤清孝、筒井貴朗、伊藤恭子.
日本臨床栄養学会雑誌 44(4): 153-162, 2022(2023). ★日本臨床栄養学会「優秀論文賞」受賞
20. シナカルセト塩酸塩からエボカルセトへの処方変更: 二次性副甲状腺機能亢進症を呈する透析患者における3年間の前向きコホート研究.
伊藤恭子、宮 政明、溜井紀子、武藤重明、筒井貴朗、安藤哲郎、永野伸郎.

群馬医学 118: 55-64, 2023.

21. 垂鉛をめぐる創薬. (最近の話題)
永野伸郎.
日本薬理学雑誌 158: 101, 2023.
22. どれくらいの透析患者が、どのようなメリットを期待して、どの程度までリン吸着薬を減らしたいと思っているのか?
伊藤恭子、高橋愛里、簗輪由妃、金井麻衣子、飯塚乃子、金井一美、小澤正子、杉本明美、高橋佑介、斎藤たか子、宮 政明、溜井紀子、武藤重明、安藤哲郎、筒井貴朗、永野伸郎.
日本透析医会雑誌 37(1): 120-128, 2022.
23. 当院で経験した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の院内クラスター ~発生の経緯と今後の課題~.
中澤かほり、成清一郎、八東真一、永野伸郎、安藤哲郎、関原哲夫、安藤義孝.
医学と薬学 79(3): 355-361, 2022.
24. Impact of phosphate binders on medication dosing frequency, timing, and number of prescribed pills in hemodialysis patients.
Nobuo Nagano, Takahiro Fukushima, Risa Shikata, Tetsuo Ando, Takaaki Tsutsui, Tetsuya Ogawa, Kyoko Ito.
Ther Apher Dial. 26(6): 1174-1181, 2022.
25. Prescription characteristics of phosphate binders in a high pill burden for hemodialysis patients.
Nobuo Nagano, Kyoko Ito, Takashi Ono, Yuichi Ariyoshi, Soichiro Masima, Hajime Kobayashi, Tetsuo Ando, Takaaki Tsutsui, Tetsuya Ogawa.
Renal Replacement Therapy 7:5, 2021.
26. Selectivity of HIF-PH inhibitors: concerns regarding possible off-target effects; Letter to the Editor.
Nobuo Nagano.
Clinical and Experimental Nephrology 25:1047-1048, 2021.
27. 銅.
永野伸郎、伊藤恭子、筒井貴朗.
血液透析診療指針（岡田一義監修、東京医学社） 151-154, 2021.
28. エボカルセト.
永野伸郎、伊藤恭子.
腎と透析 91(増刊号「腎疾患治療薬 update」): 261-266, 2021.
29. 新型コロナウイルス対策による施設での昼食提供中止が透析患者の栄養状態におよぼす影響.
村田優香、福田真佑子、山口 舞、大塚修子、大塚恭弘、斎藤たか子、安藤哲郎、筒井貴朗、小川哲也、伊藤恭子、永野伸郎.
腎と透析 91(7): 165-169, 2021.
30. 全自動化学発光免疫測定装置 ARCHITECT による腫瘍マーカーCA72-4 の日本国内基準範囲の検討.
高居邦友、坂巻浩二、井上尚美、間庭基行、阿久澤まさ子、田中一平、吉村 徹、永野伸郎.
医学と薬学 78(7): 865-871, 2021.
31. 静注鉄ガラスアンプル製剤の調製および投与時の工夫 一ガラス片の混入を防ぐためにー.
永野伸郎、高橋愛里、峰岸亜矢子、林 秀輝、高橋伴彰、溜井紀子、安藤哲郎、筒井貴朗、伊藤恭子.
日本透析医会雑誌 36(2): 287-292, 2021.
32. 食事内容・薬の飲み忘れでリンが溜まる.
村田優香、永野伸郎.
透析ケア 冬季増刊号:206-209, 2021.
33. 全自動化学発光免疫測定装置 ARCHITECT による葉酸およびビタミン B12 の日本国内基準範囲ならびに既存試薬との相関性.
高居邦友、坂巻浩二、井上尚美、間庭基行、阿久澤まさ子、田中一平、吉村 徹、永野伸郎.
医学と薬学 78(11): 1437-1449, 2021.
34. 透析患者が1回に服薬可能な経口薬剤の許容錠数.
永野伸郎、林 秀輝、斎藤たか子、宮 政明、溜井紀子、武藤重明、安藤哲郎、筒井貴朗、小川哲也、伊藤恭子.
日本透析医学会雑誌 54(11): 553-559, 2021.
35. 味覚障害 (3)透析患者における垂鉛欠乏と垂鉛補充療法.
永野伸郎、藤本裕子、村田優香、溜井紀子、伊藤恭子、筒井貴朗.
臨床透析 36(1): 43-48, 2020.
36. 血液透析患者における垂鉛投与の血清銅に対する影響.
溜井紀子、藤本裕子、熊井梢恵、橋本匡弘、磯田紀子、永野伸郎.
JSPEN 2(3): 220-226, 2020.
37. 透析患者における垂鉛と銅の役割.
永野伸郎、溜井紀子、安藤哲郎、伊藤恭子、筒井貴朗.
日本透析医会雑誌 35(1): 21-30, 2020.
38. シナカルセト塩酸塩からエボカルセトへ切り替え後、1年間を通して1mgで維持可能であった血液透析患者の特性.
土屋洋平、伊藤恭子、安藤哲郎、筒井貴朗、小川哲也、永野伸郎.
腎と透析 89(1): 141-148, 2020.
39. 血液透析患者におけるオーラルフレイルの現状ならびに栄養指標との関係.
安藤哲郎、村田優香、近藤昭之、福田真佑子、女部田浩子、新井ゆかり、鶴見 希、米川幸一、渋川美幸、斎藤たか子、閑口博行、筒井貴朗、伊藤恭子、小川哲也、永野伸郎.
腎と透析 89(4): 744-748, 2020.
40. Calcimimetics for treating hyperparathyroidism.
Michihito Wada, Takehisa Kawata, Nobuo Nagano.
Encyclopedia of Bone Biology, 1st Edition. Mone Zaidi ed. Academic Press, 697-710, 2020.
41. 新規化学発光免疫測定装置を用いた胃がんリスク層別化検査と健常者血清ペプシノゲン値に関する検討.
小森 誠、坂巻浩二、井上尚美、間庭基行、正村泰博、阿久澤まさ子、田中一平、吉村 徹、永野伸郎.

42. 日高病院における先行的腎移植への取り組み.
添野真嗣、有吉勇一、久保隆史、安藤哲郎、渕之上昌平、永野伸郎.
群馬医学 112: 53-60, 2020.
43. 先行的腎移植後も持続するネフローゼ症候群に対して自己腎動脈片側塞栓術が奏功した1例.
添野真嗣、有吉勇一、久保隆史、安藤哲郎、永野伸郎、筒井貴朗、大高行博、山崎郁郎、羽鳥基明、渕之上昌平.
日本臨床腎移植学会雑誌 8(2):273-276, 2020.
44. スクロオキシ水酸化鉄製剤の剤形変更は、服薬しやすさ、および服薬アドヒアランスを向上させる 一チュアブル錠から顆粒剤への切り替えー.
高橋愛里、林 秀輝、高橋伴彰、西澤広子、斎藤たか子、内山和彦、竹内 茂、安藤哲郎、筒井貴朗、伊藤恭子、永野伸郎.
腎と透析 87(3): 513-516, 2019.
45. 2HPT 治療 一シナカルセトとエボカルセトー 10) 消化器症状とその対策 一エボカルセトの有用性ー.
永野伸郎、筒井貴朗、伊藤恭子.
透析療法ネクス XXVI:106-112, 2019.
46. 全自動化学発光免疫測定装置 ARCHITECT アナライザーを用いた日本人健診受診者の血清総 25 ヒドロキシビタミン D 濃度の測定.
田中一平、坂巻浩二、阿久澤まさ子、吉村 徹、永野伸郎.
生物試料分析 42(4): 205-212, 2019.
47. シナカルセト塩酸塩からエボカルセトへの処方変更 ~維持血液透析患者 147 名の一斉切り替え~.
伊藤恭子、高橋愛里、斎藤たか子、宮 政明、溜井紀子、武藤重明、安藤哲郎、筒井貴朗、小川哲也、永野伸郎.
日本透析医学会雑誌 52(10):585-592, 2019.
48. 当院におけるポリファーマシーの現状と減薬への取り組み.
筒井貴朗、永野伸郎、八子有沙、伊藤恭子.
日本透析医学会雑誌 34(3): 378-383, 2019.
49. Fibroblast growth factor 23 is upregulated in the kidney in a chronic kidney disease rat Model.
Hidekazu Sugiura, Ai Matsushita, Mayuko Futaya, Atsuko Teraoka, Kenichi Akiyama, Noriyoshi Usui, Nobuo Nagano, Kosaku Nitta, Ken Tsuchiya.
PLoS One 13(3): e0191706, 2018.
50. エテルカルセチドへの期待. (座談会)
秋澤忠男、討論者:永野伸郎、今西康雄、稻津昭仁.
透析療法ネクスト XXIV:1-8, 2018.
51. 透析患者のポリファーマシーの対策はどのように行ないますか?
筒井貴朗、伊藤恭子、永野伸郎.
臨床透析 34(7): 897-900, 2018.
52. 透析患者の血清亜鉛濃度分布の実態 一低亜鉛血症と関連する因子ー.
永野伸郎、伊藤恭子、大石裕子、南 政美、林 秀輝、角田千恵、伊藤春乃、須永 悟、野原ともい、大高行博、星 綾子、溜井紀子、野原 悅、安藤哲郎、
小川哲也、新田孝作、筒井貴朗.
日本透析医学会雑誌 51(6): 369-377, 2018.
53. 慢性腎臓病患者において亜鉛は鉄よりも ESA 抵抗性と強く関連する.
筒井貴朗、伊藤恭子、角田千恵、中島春乃、須永 悟、野原ともい、大高行博、星 綾子、溜井紀子、野原 悅、小川哲也、永野伸郎.
日腎会誌 60(5): 609-618, 2018.
54. カルシウム受容体作動薬(calcimimetics)におけるクラスエフェクトとドラッグエフェクト.
永野伸郎、伊藤恭子、筒井貴朗.
腎と透析 85(3): 451-455, 2018.
55. Promiscuous 考. (巻頭言)
永野伸郎.
腎と骨代謝 31(4):249-250, 2018.
56. Calcimimetics のプロトタイプ(tecalcet)の発見と開発.
永野伸郎.
腎と骨代謝 31(4):257-266, 2018.
57. 維持血液透析患者における経口カルシウム受容体作動薬のコンプライアンスおよび処方継続率 一医療情報データを活用した薬剤疫学研究ー.
横山啓太郎、浅田真治、川田剛央、永野伸郎.
日本透析医学会雑誌 51(9): 525-532, 2018.
58. 腸内細菌叢異常への賢い対応.
永野伸郎、高木智恵子、吉野莉奈、伊藤恭子、筒井貴朗、小川哲也.
腎と透析 85(5): 665-670, 2018.
59. 沈降炭酸カルシウム.
永野伸郎、伊藤恭子、筒井貴朗.
薬局 69(11): 3150-3157, 2018.
60. Phosphate binders derived from natural ores contain many kinds of metallic elements besides their active ingredient metals.
Nobuo Nagano, Ayako Minegishi, Kyoko Ito, Tetsuo Ando, Takaaki Tsutsui, Tetsuya Ogawa.
Ther Apher Dial 22(6): 630-634, 2018.
61. 保存期慢性腎臓病および血液透析患者における血清亜鉛濃度測定の意義.
永野伸郎、伊藤恭子、筒井貴朗.
日本透析医学会雑誌 33(3): 484-491, 2018.
62. Higher reticulocyte counts are associated with higher mortality rates in hemodialysis patients: a retrospective single-center cohort study.
Chioko Takagi, Kumeo Ono, Hidenori Matsu, Nobuo Nagano, Yoshihisa Nojima.
Ren Replace Ther 3:4, DOI: 10.1186/s41100-016-0084-5, 2017.

63. 透析患者の高リン血症に対するビフィズス菌含有腸溶性カプセル剤の臨床効果.
島田美紀子、永野伸郎、河野麻実子、金谷 忠、伊藤恭子、安藤哲郎、筒井貴朗、小川哲也.
腎と透析 82(4): 605-611, 2017.
64. 透析時血管痛に著効したマイクロコーンによる耳介治療: 3 例報告.
竹内 茂、大塚恭弘、林 高志、永野伸郎、安藤哲郎、小林 充.
日本透析医学会雑誌 50: 197-201, 2017.
65. 医師からみた透析患者のボリファーマシー対策.
伊藤恭子、筒井貴朗、永野伸郎.
臨床透析 33(4): 355-362, 2017.
66. 透析患者において、高用量の darbepoetin alfa から epoetin β pegol への切替えは、ESA 抵抗性指数を低下させる.
伊藤恭子、永野伸郎、安藤哲郎、筒井貴朗、小川哲也、新田孝作.
腎と透析 82(5):747-751, 2017.
67. 日高病院における NST 活動の数値化ならびに介入効果の検証.
藤本裕子、永野伸郎、磯田紀子、柴山みどり、西山節子、茂木みさ子、大澤清孝.
日本静脈経腸栄養学会雑誌 32(3):1191-1194, 2017.
68. リン吸着薬のアドヒアランス リン吸着薬処方量の多寡は服薬アドヒアランスに関連するか?
永野伸郎、高橋伴彰、伊藤恭子、安藤哲郎、筒井貴朗.
透析療法ネクスト XXII:127-135, 2017.
69. 二次性副甲状腺機能亢進症の薬物療法 ～活性型ビタミン D とシナカルセト～.
永野伸郎、伊藤恭子、筒井貴朗.
最新透析医療 先端技術との融合 第 8 章 透析患者の合併症 ⑦MBD pp.685-691, 2016.
(新田孝作監修、医薬ジャーナル社、大阪)
70. 専門的口腔ケア介入は入院患者の口腔内アセスメントスコアを改善する。
角田宗弘、渡部隆夫、金子美紀、永野伸郎、袖木泰広、金子沙奈恵、矢島雅美、小野原静香、西 彩乃、牧口由似、天笠光雄.
日本口腔ケア学会雑誌 10(1): 94-99, 2016.
71. クエン酸第二鉄の製剤学的特徴に基づく溶解性とリン吸着能 一胃内環境を想定した溶解性試験および吸着試験一.
永野伸郎、伊藤恭子、安藤哲郎、筒井貴朗.
透析療法ネクスト XX:23-28, 2016.
72. カルシウム感知受容体を標的とした薬剤の薬理学的特性 一シナカルセト塩酸塩の allosteric modulator としての特長一.
永野伸郎、筒井貴朗.
CLINICAL CALCIUM 26(6):839-850, 2016.
73. リン吸着薬処方錠数の増加は服薬アドヒアランス低下およびリン管理不良と関連する.
伊藤恭子、永野伸郎、高橋伴彰、石田秀岐、田ヶ原綾香、塙田美保、野原ともい、岡島真理、野原 悅、星 緋子、溜井紀子、安藤哲郎、筒井貴朗、新田孝作、佐倉 宏、小川哲也.
日本透析医学会雑誌 49(7): 475-482, 2016.
74. Impact of the Visceral Fat Area Measured by Dual Impedance Method on the Diagnostic Components of Metabolic Diseases in a Middle-aged Japanese Population.
Sakamaki K, Maejima Y, Tokita Y, Masamura Y, Kumamoto K, Akuzawa M, Nagano N, Nakajima K, Shimomura K, Takenoshita S, Shimomura Y.
Intern Med 55(13):1691-1696, 2016.
75. リン吸着薬に医薬品添加剤として含まれるマグネシウムが透析患者の血清マグネシウム値に影響する可能性。
永野伸郎、伊藤恭子、本多雅代、須永 悟、田ヶ原綾香、野原ともい、野原 悅、星 緋子、溜井紀子、安藤哲郎、筒井貴朗、新田孝作、佐倉 宏、小川哲也.
日本透析医学会雑誌 49(9): 571-580, 2016.
76. 慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常(CKD-MBD)の病態と各種治療薬の特性.
永野伸郎、伊藤恭子、安藤哲郎、筒井貴朗.
PHARM STAGE 16(9): 60-66, 2016.
77. Self-awareness of fast eating and its impact on diagnostic components of metabolic syndrome among middle-aged Japanese males and females.
Nohara A, Maejima Y, Shimomura K, Kumamoto K, Takahashi M, Akuzawa M, Negishi M, Ishiyama N, Nagano N, Aso Y, Takenoshita S, Shimomura Y.
Endocr Regul 49:91-96, 2015.
78. Klotho/FGF23 axis in CKD.
Ken Tsuchiya, Nobuo Nagano, Kosaku Nitta.
Contrib Nephrol 185:56-65, 2015.
79. メタボ・糖尿病外来患者の血圧管理におけるアジルサルタンの有用性.
野原 悅、永野伸郎、野原ともい、伊藤恭子、安藤哲郎、筒井貴朗、根岸真由美、高橋正樹、安藤義孝、下村洋之助.
医学と薬学 72:1541-1549, 2015.
80. The mechanism of decreased serum phosphorus levels in rats with chronic kidney disease after oral administration of Bifidobacterium longum.
Nobuo Nagano, Mayuko Futaya, Mamiko Kohno, Osami Nakano, Norihisa Nishida, Yoichi Matsuura, Mikiko Shimada, Kyoko Ito, Tetsuo Ando, Takaaki Tsutsui, Yoshitaka Ando, Kiyotsugu Omae, Kosaku Nitta, Hiroshi Sakura, Tetsuya Ogawa.
Advances in Microbiology 5: 531-540, 2015.
81. Effect of polydextrose intake on constipation in Japanese dialysis patients; a triple-blind randomized, controlled trial.
Mikiko Shimada, Nobuo Nagano, Saori Goto, Kyoko Ito, Takaaki Tsutsui, Tetsuo Ando, Hinoharu Kamioka, Tetsuya Ogawa.
J Nutr Sci Vitaminol 61: 345-353, 2015.
82. 心破裂に至った透析アミロイドーシスの 1 例.
肥田実里、山根優子、筒井貴朗、野原ともい、星 緋子、溜井紀子、久保隆史、安藤哲郎、伊藤恭子、永野伸郎、中里洋一、安藤義孝.
腎と透析 79(5): 835-838, 2015.
83. リン吸着薬の製剤工夫と服薬アドヒアランス.
永野伸郎、高橋伴彰、石田秀岐、伊藤恭子、安藤哲郎、筒井貴朗.
Nephrology Frontier 14(4): 316-321, 2015.

84. 透析患者における抑うつ関連因子 一自己評価抑うつ尺度(SDS)を用いた評価一.
伊藤恭子、永野伸郎、高橋祐介、斎藤たか子、石田秀岐、閑口博行、田ヶ原綾香、野原ともい、岡島真理、野原 悅、星 純子、溜井紀子、安藤哲郎、筒井貴朗、
安藤義孝、新田幸作、佐倉 宏、小川哲也.
日本透析医会雑誌 30(3): 519-528, 2015.
85. 人間ドック受診者における高感度測定系による血中心筋トロポニン I 濃度の測定意義.
坂巻浩二、霞 利夫、長嶋起久雄、阿久澤まさ子、中嶋克行、下村洋之助、田中一平、絹川秀樹、吉村 徹、永野伸郎、安藤義孝.
総合健診 41: 428-433, 2014.
86. シナカルセト塩酸塩にはどんな作用があるの?
永野伸郎、伊藤恭子.
透析ケア 20: 656-659, 2014.
87. 第10節 腎疾患治療薬 —非臨床薬理試験— 第9章 疾患ごとに求められるデータ取得のポイント
永野伸郎、安藤哲郎、筒井貴朗、小川哲也.
医薬品／医療機器の承認申請書の上手な書き方・まとめ方 ~審査に不可欠なデータ・情報の取得の仕方~
pp.422-428, 2014(技術情報協会、東京)
88. Fibroblast growth factor23/Klotho axis in chronic kidney disease.
Kosaku Niita, Nobuo Nagano, Ken Tsuchiya.
Nephron Clinical Practice 128:1-10, 2014.
89. 透析患者における皮膚水分量の特性ならびに痒みとの関係.
野原ともい、永野伸郎、丸山雅美、石田秀岐、閑口博行、野原 悅、田ヶ原綾香、肥田実里、星 純子、溜井紀子、高木智恵子、伊藤恭子、安藤哲郎、筒井貴朗、
安藤義孝、新田幸作、佐倉 宏、小川哲也.
日本透析医学会雑誌 47:637-646, 2014.
90. 慢性腎臓病に伴う骨ミネラル代謝異常(CKD-MBD)の発症機序・病態・対処法.
永野伸郎.
日本透析医会雑誌 29:474-475, 2014.
91. Skypeビデオ通話による透析患者のバスクュラーアクセス遠隔診療.
安藤哲郎、久保隆史、添野真嗣、石田秀岐、伊藤恭子、小林 充、磯松幸成、高橋 修、永野伸郎、安藤義孝.
日本透析医学会雑誌 46: 399-403, 2013.
92. 全自動化学発光免疫測定装置を用いた血中心筋トロポニン I 高感度測定試薬(アーキテクト®・high sensitive トロポニン I)の基礎評価.
坂巻浩二、間庭基行、霞 利夫、中嶋克行、下村洋之助、長嶋起久雄、阿久澤まさ子、田中一平、絹川秀樹、吉村 徹、永野伸郎、安藤義孝.
医学と薬学 69: 659-665, 2013.
93. 二次性副甲状腺機能亢進症発症機序の新たな考え方: trade-off 仮説の薬理学的検証ならびに FGF23/Klotho の関与.
永野伸郎、安藤哲郎、筒井貴朗、溜井紀子、伊藤恭子、下村洋之助、小川哲也、安藤義孝.
日本透析医学会雑誌 46: 519-533 , 2013.
94. 食物繊維ゼリーは糖尿病透析患者の高血糖および便通を改善する:バイロット試験.
島田美樹子、横山真由美、永野伸郎、伊藤恭子、安藤哲郎、小川哲也、大塚邦明、安藤義孝.
日本食物繊維学会誌 17: 27-33, 2013.
95. 糖尿病透析患者におけるインスリン製剤投与後の血糖値および血清インスリン濃度の推移 一透析日および非透析日間の比較一.
久永悦子、小林 充、大塚恭弘、林 高志、安藤哲郎、永野伸郎.
福島医学雑誌 63: 216-221, 2013.
96. Epoetin beta pegol(ミルセラ®)の皮下投与時の疼痛は darbepoetin alfa(ネスプ®)より軽度である
筒井貴朗、小島智暨里、溜井紀子、岩渕裕子、星 純子、安藤哲郎、永野伸郎、小川哲也、安藤義孝.
BIO Clinica 27:379-387, 2012.
97. 長期留置カテーテルを挿入した内臓錯位症候群を呈する維持血液透析患者の一例:右上大静脈欠損、左上大静脈遺残および下大静脈欠損例.
安藤哲郎、岩淵裕子、溜井紀子、久保隆史、添野真嗣、小林 充、町田昌巳、小林大志朗、塩野昭彦、伊藤恭子、筒井貴朗、永野伸郎、安藤義孝.
日本透析医学会雑誌 45: 495-499, 2012.
98. Oral administration of Bifidobacterium longum in a gastro-resistant seamless capsule decreases serum phosphate levels in patients receiving haemodialysis.
Tetsuya Ogawa, Mikiko Shimada, Nobuo Nagano, Kyoko Ito, Tetsuo Ando, Yohnosuke Shimomura, Yoshitaka Ando, Kuniaki Otsuka.
Clinical Kidney Journal 5:373-374, 2012.
99. Pathogenesis of secondary hyperparathyroidism and fibroblast growth factor-23 (FGF23) : a pharmacological validation of "Trade-off Hypothesis".
Nobuo Nagano, Tetsuo Ando and Yohnosuke Shimomura.
Am J Physiol Endocrinol Metab 302:E1450-1451, 2012.
100. シナカルセト塩酸塩とリン代謝.
永野伸郎、安藤哲郎、伊藤恭子、安藤義孝.
CLINICAL CALCIUM 22: 1567-1576, 2012.
101. 理解を助けるトレーニング問題.
永野伸郎.
CLINICAL CALCIUM 22: 1594-1595, 2012.
102. たんぱく質および熱量の経口補給による低栄養透析患者の血清アルブミン値改善 一乳製品との混合補給の試み一.
島田美樹子、永野伸郎、横山真由美、熊倉美穂、伊藤恭子、筒井貴朗、安藤哲郎、小川哲也、大塚邦明、下村洋之助、安藤義孝、小林 功.
日本病態栄養学会誌 15: 249-257, 2012.
103. 維持血液透析患者における各 ESA からエポエチン ベータ ベゴルへの切替時の血清ヘプシジン値および鉄動態の検討.
小川哲也、伊藤恭子、清水比美子、佐藤尚代、興野 藍、永野伸郎、大塚邦明.
医薬ジャーナル 48:2618-2624, 2012.
104. シナカルセト塩酸塩と血管石灰化.
溜井紀子、伊藤恭子、永野伸郎、安藤義孝.

腎と透析 71:867-872, 2011.

105. シナカルセト塩酸塩がもたらす二次性副甲状腺機能亢進症治療薬のパラダイムシフト.
永野伸郎、伊藤恭子、安藤哲郎、下村洋之助、安藤義孝.
Medical Science Digest 37:590-595, 2011.
106. EPO 受容体の局在.
永野伸郎、小川哲也、安藤義孝.
腎と透析 71:193-198, 2011.
107. シナカルセト塩酸塩の嘔吐誘発作用に対するドンペリドンの予防効果 一マーモセットおよびラットを用いた基礎検討一.
春山和佳、川田剛央、絶慶洋治、加藤恵理、荒木美保、増田奈美、永野伸郎.
Nephrology Frontier 増刊号(第 22 回日本腎性骨症研究会記録集):26-29, 2011.
108. 第三章:Ca 受容体とカルシミメティクス研究の最前線.
永野伸郎.
腎臓ネット 腎臓病診療の最先端 vol.20, 2011.(<http://www.jinzou.net/>)
109. Cinacalcet HCl suppresses Cyclin D1 oncogene-derived parathyroid cell proliferation in a murine model for primary hyperparathyroidism.
Imanishi Y, Kawata T, Kenko T, Wada M, Nagano N, Miki T, Arnold A, Inaba M.
Calcif Tissue Int. 89(1):29-35, 2011.
110. シナカルセト塩酸塩の嘔吐誘発作用に対するドンペリドンの予防効果 一マーモセットおよびラットを用いた基礎検討一.
春山和佳、川田剛央、絶慶洋治、加藤恵理、荒木美保、増田奈美、永野伸郎.
腎と透析 70:301-306, 2011.
111. Direct evidence for a causative role of FGF23 in the abnormal renal phosphate handling and vitamin D metabolism in rats with early-stage chronic kidney disease.
Hisashi Hasegawa*, Nobuo Nagano*, Itaru Urakawa, Yuji Yamazaki, Kousuke Iijima, Toshiro Fujita, Takeyoshi Yamashita, Seiji Fukumoto, Takashi Shimada.
(*; equally contributed to this work)
Kidney International 78:975-980, 2010.
112. Calcimimetics の血管石灰化抑制作用.
小尾真樹、永野伸郎.
Annual Review 腎臓 2010 御手洗 哲也、秋澤 忠男、五十嵐 隆、東原 英二、金井 好克 編.
(中外医学社、東京) pp158-164, 2010.
113. カルシウム受容体作動薬(calcimimetics)の臨床的役割と期待.
内河利明、永野伸郎.
BIO Clinica 25:57-64, 2010.
114. ミネラル代謝異常における FGF23 研究の新展開.
長谷川尚、永野伸郎.
細胞 42:164-167, 2010.
115. 二次性副甲状腺機能亢進症発症機序の新しい考え方 一腎機能が低下すると、何故、副甲状腺機能が亢進するのか?一.
永野伸郎.
BIO Clinica 25:1260-1265, 2010.
116. Calcimimetics の臟器選択性に関する考察 一 promiscuous or faithful? 一.
永野伸郎.
透析療法ネクスト IX. 秋葉 隆、秋澤忠男 編. (医学図書、東京) pp133-144, 2009.
117. 赤血球産生刺激剤(ESA)の最近の話題.
白木毅彦、永野伸郎.
内科 104:95-100, 2009.
118. カルシウム受容体作動薬(シナカルセト塩酸塩、レグバラチン).
川田剛央、小尾真樹、永野伸郎.
細胞 41:331-334, 2009.
119. 部分腎摘ラットにおける血管石灰化に対するシナカルセト塩酸塩の作用.
小尾真樹、永野伸郎、宮田そのえ、小山智加、小林奈巳、脇田幸子、川田剛央、和田倫齊.
Nephrology Frontier 増刊号(第 20 回日本腎性骨症研究会記録集):29-33, 2009.
120. Cinacalcet suppresses calcification of the aorta and heart in uremic rats.
Takehisa Kawata, Nobuo Nagano, Masaki Obi, Sonoe Miyata, Chika Koyama, Nami Kobayashi, Sachiko Wakita, Michihito Wada.
Kidney International 74:1270-1277, 2008.
121. The administration of cinacalcet hydrochloride just before a haemodialysis session suppresses the transient rise in intact parathyroid hormone induced by a low calcium-dialysate: when should cinacalcet hydrochloride be administered?
Masayuki Date, Yoshiteru Kawashita, Mika Matsuzaki, Hajime Kobayashi, Nobuo Nagano.
NDT Plus 6:463-471, 2008.
122. カルシミメティクス.
永野伸郎.
腎疾患・透析最新の治療 2008-2010. 横野博史、飯野靖彦、秋澤忠男 編. (南江堂、東京) pp407-410, 2008.
123. 第 18 章 造血因子.
永野伸郎.
創薬 20 の事例にみるその科学と研究開発戦略 山崎恒義、堀江 透 編. (丸善、東京) pp297-310, 2008.
124. Calcimimetics の発見と開発.
永野伸郎.
CLINICAL CALCIUM 18:37-44, 2008.

125. 透析施行中の腎性貧血に対する持続型赤血球造血刺激因子製剤(ダルベポエチン アルファ;ネスプ[®])の薬理作用ならびに臨床試験成績.
永野伸郎.
日本薬理学雑誌 131:291-299, 2008.
126. カルシウム受容体作動薬の創薬と現状.
永野伸郎、古田孝之.
腎と骨代謝 21:113-121, 2008.
127. 持続型赤血球造血刺激因子製剤(ネスプ[®]).
永野伸郎.
BIO Clinica 23:969-972, 2008.
128. 二次性副甲状腺機能亢進症治療薬 -Calcimimetics-.
永野伸郎.
内分泌・糖尿病科 27:145-153, 2008.
129. カルシウム受容体作動(calcimimetics)の薬理・臨床試験成績;維持透析下の二次性副甲状腺機能亢進症治療薬(シナカルセト塩酸塩、レグバラ錠).
永野伸郎、川田剛央、和田倫齊.
日本薬理学雑誌 132:301-308, 2008.
130. 新しい二次性副甲状腺機能亢進症治療薬:シナカルセト塩酸塩(レグバラ)の基礎と臨床.
永野伸郎.
愛媛県臨床工学技士会誌 19:36-49, 2008.
131. 慢性腎臓病に伴う貧血:治療薬の開発と現状.
永野伸郎.
第12回HAB研究機構市民公開シンポジウム「慢性腎臓病との付き合い方」
HAB研究機構 総書 Vo.11:69-113, 「総合討論」Vo.11:115-129, 2008.
132. シナカルセトの基礎と臨床応用. (Round Table Discussion)
永野伸郎、深川雅史、窪田 実、秋葉 隆.
Nephrology Frontier 7:220-229, 2008.
133. 塩酸セペラマーによる石灰化抑制.
福島 直、永野伸郎.
Bio Clinica 22:240-245, 2007.
134. 副甲状腺ホルモン分泌抑制薬:Calcimimetics.
永野伸郎.
ホルモンと臨床 55:649-654, 2007.
135. 国内外のCKDに対するエビデンス 貧血.
永野伸郎、巽 浩幸.
内科 100:58-62, 2007.
136. 持続型赤血球造血刺激因子製剤(ダルベポエチン アルファ;ネスプ)の開発.
永野伸郎.
細胞 39:557-560, 2007.
137. カルシウムと命 ~古生物から蟻まで~.
永野伸郎.
第35回埼玉透析医学会学術集会 発表記録集 4-13, 2007.
138. Effect of manipulating serum phosphorus with phosphate binder on circulating PTH and FGF-23 in renal failure rats.
Nobuo Nagano, Sonoe Miyata, Megumi Abe, Nami Kobayashi, Sachiko Wakita, Takeyoshi Yamashita, Michihito Wada.
Kidney International 69:531-537, 2006.
139. Sevelamer hydrochloride reverses parathyroid gland enlargement via regression of cell hypertrophy but not apoptosis in rats with chronic renal insufficiency.
Nobuo Nagano, Sonoe Miyata, Megumi Abe, Sachiko Wakita, Nami Kobayashi, Michihito Wada.
Nephrology and Dialysis Transplantation 21: 634-643, 2006.
140. Direct *in vitro* evidence of the suppressive effect of cinacalcet HCl on parathyroid hormone secretion in human parathyroid cells with pathologically reduced calcium-sensing receptor levels.
Takehisa Kawata, Yasuo Imanishi, Keisuke Kobayashi, Naoyoshi Onoda, Senji Okuno, Yoshiaki Takemoto, Takeshi Komo, Hideki Tahara, Michihito Wada, Nobuo Nagano, Eiji Ishimura, Takami Miki, Tetsuro Ishikawa, Masaaki Inaba, Yoshiki Nishizawa.
Journal of Bone and Mineral Metabolism 24:300-306, 2006.
141. Efficacy of darbepoetin for doxorubicin induced cardio-renal syndrome in rat.
Eisei Noiri*, Nobuo Nagano*, Kosuke Negishi, Kent Doi, Sonoe Miyata, Megumi Abe, Tamami Tanaka, Koji Okamoto, Norio Hanafusa, Yasushi Kondo, Nobukazu Ishizaka, Toshiro Fujita. (*: equally contributed to this work)
Nephron Experimental Nephrology 104:e6-e14, 2006.
142. 新世代貧血治療薬(KRN321、ダルベポエチン アルファ)の基礎特性.
永野伸郎、吉岡英司、赤堀弘典、西山宇一、萩原哲也、和田倫齊、桑木知朗.
腎と透析 60:1039-1046, 2006.
143. Magnesium and osteoporosis.
Hirotoshi Morii, Takehisa Kawata, Nobuo Nagano, Takashi Shimada, Chie Motonaga, Mariko Okamoto, Takao Nohmi, Takami Miki, Masatoshi Kobayashi, Kuniko Hara, Yasuhiro Akiyama.
New Perspectives in Magnesium Research Nutrition and Health.
Ed. By Yoshiki Nishizawa, Hirotoshi Morii, Jean Durlach. (Springer, London) pp266-271, 2006.
144. Pharmacological and clinical properties of calcimimetics: calcium receptor activators that afford an innovative approach to controlling hyperparathyroidism.
Nobuo Nagano.
Pharmacology & Therapeutics 109:339-365, 2006.

145. Calcimimetic drug -新たなエビデンスと将来展望-.
永野伸郎.
腎と透析 60:770-776, 2006.
146. Calcimimetics の現況 -新しい副甲状腺機能亢進症治療薬(シナカルセト塩酸塩)ー.
永野伸郎.
日本透析医会雑誌 21:300-309, 2006.
147. カルシウム受容体. (キーワード解説)
永野伸郎.
日本薬理学雑誌 128:188-190, 2006.
148. 塩酸セペラマー間歇投与時の血中 PTH 及び FGF23 値の動態 一慢性腎不全ラットにおける検討ー.
永野伸郎、宮田そのえ、阿部めぐみ、脇田幸子、小林奈巳、和田倫齊.
CLINICAL CALCIUM 15(S-1):35-40, 2005.
149. Relationship between parathyroid calcium-sensing receptor expression and potency of the calcimimetic cinacalcet in suppressing parathyroid hormone secretion in an *in vivo* murine model of primary hyperparathyroidism.
Takehisa Kawata, Yasuo Imanishi, Keisuke Kobayashi, Takao Kenko, Michihito Wada, Eiji Ishimura, Takami Miki, Nobuo Nagano, Masaaki Inaba, Andrew Arnold, Yoshiki Nishizawa.
European Journal of Endocrinology 153:587-594, 2005.
150. 塩酸セペラマー(レナジエル・オスブロック).
永野伸郎、牧野行伸.
腎臓病－診断と治療の最前線. 浅野 泰、下条文武、秋澤忠男 編. (先端医療技術研究所、東京) pp349-355, 2005.
151. カルシウム受容体制御による副甲状腺ホルモン(PTH) 分泌抑制薬(calcimimetics) ーPTH 分泌セットポイントに対する作用ー.
永野伸郎.
CLINICAL CALCIUM 15:71-78, 2005.
152. Functional proteins involved in regulation of intracellular Ca²⁺ for drug development: The extracellular calcium-sensing mechanism and an innovative medical approach to control hyperparathyroidism by calcimimetics.
Nobuo Nagano, Edward F. Nemeth.
Journal of Pharmacological Sciences 97:355-360, 2005.
153. カルシウム受容体作動薬(シナカルセト塩酸塩)ー画期的な二次性副甲状腺機能亢進症治療ー.
永野伸郎.
BIO Clinica 20:1003-1007, 2005.
154. カルシウム受容体とマグネシウム代謝.
川田剛央、永野伸郎.
CLINICAL CALCIUM 15:1805-1812, 2005.
155. Augmented cytoplasmic Smad4 induces acceleration of TGF-β1 signaling in renal tubulointerstitial cells of hereditary nephritic ICGN mice with chronic renal fibrosis; possible role for myofibroblastic differentiation.
Y. Goto, N. Manabe, K. Uchio-Yamada, M. Yamaguchi-Yamada, N. Inoue, Y. Yamamoto, A. Ogura, N. Nagano, H. Miyamoto.
Cell & Tissue Research 315:209-221, 2004.
156. 正常および腎不全ラットにおける sevelamer hydrochloride 投与後の血清リンおよび副甲状腺ホルモン値の時間変化 一時間制限給餌下での検討ー.
永野伸郎、宮田そのえ、阿部めぐみ、脇田幸子、小林奈巳、青野友紀子、和田倫齊.
日本透析医学会雑誌 37(6):1423-1429, 2004.
157. フォスファトニンとリン代謝.
山下武美、永野伸郎、福本誠二.
腎不全ドリン 鈴木正司、秋澤忠男編. (日本メディカルセンター、東京) pp185-192, 2004.
158. カルシウム受容体作動薬(calcimimetics) ー無機イオン受容体を標的とした副甲状腺機能亢進症治療薬ー.
永野伸郎、和田倫齊.
医学の歩み 208:547-552, 2004.
159. 塩酸セペラマーの血管石灰化抑制作用.
福島 直、永野伸郎.
CLINICAL CALCIUM 14:116-122, 2004.
160. リンと副甲状腺機能.
永野伸郎.
日本透析医学会雑誌 37:2046-2048, 2004.
161. 副甲状腺機能亢進症および異所性石灰化は塩酸セペラマーにより reverse 可能か?
永野伸郎、宮田そのえ、阿部めぐみ、脇田幸子、小林奈巳、青野友紀子、和田倫齊.
第 15 回腎とビタミン D 研究会 記録集 127-132, 2004 「総合討論」 同記録集 143-149, 2004.
162. 新規リン吸着剤 sevelamer hydrochloride の血中コレステロール低下作用機序.
永野伸郎、小花幸子、宮田そのえ、小林奈巳、阿部めぐみ、福島 直、和田倫齊.
透析会誌 36(1): 47-54, 2003.
163. Sevelamer hydrochloride, a calcium-free phosphate binder, inhibits parathyroid cell proliferation in partially nephrectomized rats.
Nobuo Nagano, Sonoe Miyata, Sachiko Obana, Nami Kobayashi, Megumi Abe, Naoshi Fukushima, Michihito Wada.
Nephrology and Dialysis Transplantation 18 (Suppl 3): 81-85, 2003.
164. Sevelamer hydrochloride, a phosphate binder, protects against deterioration of renal function in rats with progressive chronic renal insufficiency.
Nobuo Nagano, Sonoe Miyata, Sachiko Obana, Nami Kobayashi, Naoshi Fukushima, Steven K. Burke, Michihito Wada.
Nephrology and Dialysis Transplantation 18:2014-2034, 2003.
165. 腎不全ラットの高リン血症に対する塩酸セペラマーの治療効果.
草野健一郎、勝俣京子、平田道則、永野伸郎、福島 直.
薬理と治療 31(3): 2003-207, 2003.

166. 慢性腎不全ラットの副甲状腺細胞増殖に対するカルシトリオールの抑制作用 一マキサカルシトールとの比較検討一.
川田剛央、宮田そのえ、小林奈巳、小花幸子、阿部めぐみ、和田倫斎、永野伸郎.
腎と透析 6:811-815, 2003.
167. Sevelamer hydrochloride prevents ectopic calcification and renal osteodystrophy in chronic renal failure rats.
Kyoko Katsumata, Kenichiro Kusano, Michihito Hirata, Kunihiko Tsunemi, Nobuo Nagano, Steven K Burke, Naoshi Fukushima.
Kidney International 64:441-450, 2003.
168. Regulation of parathyroid gland cells by calcium and phosphate in uremia: A pharmacological investigation using calcimimetics and phosphate binder.
Nobuo Nagano, Michihito Wada.
Animal Frontier Sciences. Ed. By Eimei Sato, Hajime Miyamoto, Noboru Manabe.
(Hokuto Shobo, Kyoto) pp261-264, 2003.
169. Mosaic evolution of calcium sensing in the mammalian endocrine pancreas.
Mihihito Wada, Yoshihiro Furuya, Nobuo Nagano.
Animal Frontier Sciences. Ed. By Eimei Sato, Hajime Miyamoto, Noboru Manabe.
(Hokuto Shobo, Kyoto) pp3-6, 2003.
170. カルシウム受容体作動薬への期待.
和田倫斎、永野伸郎.
臨床透析 19:61-69, 2003.
171. 新しい腎性貧血治療薬(NESP).
永野伸郎.
臨床透析 19:87-92, 2003
172. 塩酸セベラマーの作用機序と基礎的考察.
永野伸郎、福島 直.
医薬ジャーナル 39:126-132, 2003.
173. 新しいリン吸着剤(塩酸セベラマー).
永野伸郎、島崎竜太郎、福島 直、長谷部 弘.
BIO Clinica 18:77-80, 2003.
174. Control of parathyroid cell growth by calcimimetics.
Michihito Wada, Nobuo Nagano.
Nephrology Dialysis Transplantation 18(Suppl 3): 13-17, 2003.
175. 慢性腎不全患者の高リン血症に対する新規リン結合性ポリマー(塩酸セベラマー)の薬理作用ならびに臨床試験成績.
永野伸郎、福島 直.
日本薬理学雑誌 122:443-453, 2003.
176. 部分腎摘出ラットの副甲状腺機能亢進症及び血管石灰化に対するカルシトリオールの作用 一血管石灰化を惹起せずにPTHを低下させ得る一.
和田倫斎、川田剛央、小林奈巳、宮田そのえ、小花幸子、阿部めぐみ、永野伸郎.
第13回腎とビタミンD研究会 記録集 25-28, 2002.
177. Clusterin is up-regulated in glomerular mesangial cells in complement-mediated injury.
Koie Yamada, Yuichi Hori, Norio Hanafusa, Toshihiro Okuda, Nobuo Nagano, Nam-Ho Choi-Miura, William G. Couser, Toshio Miyata, Kiyoshi Kurokawa, Toshiro Fujita, Masaomi Nangaku.
Kidney International 59:137-146, 2001.
178. Changes in quantitative profile of extracellular matrix components in the kidneys of rats with adriamycin-induced nephropathy.
Noboru Manabe, Akiko Kinoshita, Misuzu Yamaguchi, Yoshihiro Furuya, Nobuo Nagano, Kozue Yamada-Uchio, Naotsugu Akashi, Keiko Miyamoto-Kuramitsu, Hajime Miyamoto.
Journal of Veterinary Medical Science 63:125-133, 2001.
179. Renal mineral handling in normal rats treated with sevelamer hydrochloride (Renagel), a noncalcemic phosphate binder.
Nobuo Nagano, Sonoe Miyata, Sachiko Obama, Nobuaki Eto, Naoshi Fukushima, Steven K. Burke, Michihito Wada.
Nephron 89:321-328, 2001.
180. Sevelamer hydrochloride (Renagel), a non-calcaemic phosphate binder, arrests the parathyroid gland hyperplasia in rats with progressive chronic renal insufficiency.
Nobuo Nagano, Sonoe Miyata, Sachiko Obama, Naoshi Fukushima, Steven K. Burke, Michihito Wada.
Nephrology and Dialysis Transplantation 16:1870-1878, 2001.
181. Cloning of rodent megsin revealed its up-regulation in mesangioproliferative nephritis.
Masafumi Nangaku, Toshio Miyata, Daisuke Suzuki, Tomoya Umezono, Tsutomu Hashimoto, Takehiko Wada, Mikio Yagi, Nobuo Nagano, Reiko Inagi, Kiyoshi Kurokawa.
Kidney International 60:641-652, 2001.
182. The extracellular calcium-sensing mechanism and an innovative medical approach to control hyperparathyroidism —From bench to bedside—.
Nobuo Nagano, Michihito Wada.
Reproductive Biotechnology. Ed. by Hajime Miyamoto and Noboru Manabe.
(Hokuto Shobo, Kyoto) pp355-359, 2001.
183. Quantitative estimation of physiological properties by histochemical techniques.
Noboru Manabe, Kozue Yamada-Uchio, Misuzu Yamaguchi, Kohji Komatsu, Nobuo Nagano, Yasuyoshi Furuya, Hajime Miyamoto.
Reproductive Biotechnology. Ed. by Hajime Miyamoto and Noboru Manabe.
(Hokuto Shobo, Kyoto) pp397-404, 2001.
184. カルシウム受容体を標的とした創薬研究の現状と将来展望.
永野伸郎.
ファルマシア 37:297-301, 2001.
185. 副甲状腺ホルモン(PTH)分泌調節薬.
永野伸郎、飯島 洋.
CLINICAL CALCIUM 11:1058-1062, 2001.

186. Calcimimetic NPS R-568 prevents parathyroid hyperplasia in rats with severe secondary hyperparathyroidism.
Michihito Wada, Nobuo Nagano, Yoshihiro Furuya, Ji Chin, Edward F. Nemeth, John Fox.
Kidney International 57:50-58, 2000.
187. Daily intermittent decreases in serum levels of parathyroid hormone have an anabolic-like action on the bones of uremic rats with low-turnover bone and osteomalacia.
Hiromi Ishii, Michihito Wada, Yoshihiro Furuya, Nobuo Nagano, Edward F. Nemeth, John Fox.
Bone 26:175-182, 2000.
188. Activation of the calcium receptor by a calcimimetic compound halts the progression of secondary hyperparathyroidism in uremic rats.
Ji Chin, Scott C. Miller, Michihito Wada, Nobuo Nagano, Edward F. Nemeth, John Fox.
Journal of the American Society of Nephrology 11:903-911, 2000.
189. Characteristic changes in carbohydrate profile in the kidneys of hereditary nephrotic mice (ICGN strain).
Kotaro Tamura, Noboru Manabe, Kozue Uchino, Makoto Miyamoto, Misuzu Yamaguchi, Atsuo Ogura, Yoshie Yamamoto, Nobuo Nagano, Yoshihiro Furuya, Hajime Miyamoto.
Journal of Veterinary Medical Science 62:379-390, 2000.
190. Pharmacological properties of the calcimimetic compound NPS R-568 in vitro and in vivo.
Yasunobu Murakami, Yoshihiro Furuya, Michihito Wada, Teruyuki Sakai, Nobuo Nagano.
Clinical Experimental Nephrology 4:293-299, 2000.
191. カルシウム受容体作動性薬剤.
鳥居義史、和田倫斎、永野伸郎.
腎と透析 48:529-533, 2000.
192. Calcium receptor antagonist (Calcilytics).
永野伸郎.
CLINICAL CALCIUM 10:1252-1254, 2000.
193. カルシウム受容体作用薬.
永野伸郎.
透析骨病変 ー新しい考え方ー. 黒川 清 監修、深川雅史 編、(日本メディカルセンター、東京) pp141-146, 1999.
194. カルシウム受容体に作用する新しい薬剤の開発 ー副甲状腺機能亢進症治療薬としての可能性ー.
永野伸郎.
日本透析医学会雑誌 32:19-26, 1999.
195. 副甲状腺機能亢進症治療時の副甲状腺縮小にアボトーシスは重要か.
和田倫斎、永野伸郎.
CLINICAL CALCIUM 9:624-626, 1999.
196. カルシウム受容体作動薬(calcimimetics).
永野伸郎.
BIO Clinica 14:545-548, 1999.
197. カルシウム受容体作動薬(calcimimetics)の臨床応用と展望に関する一考察.
永野伸郎.
CLINICAL CALCIUM 9:770-774, 1999.
198. The calcium receptor and calcimimetics.
Michihito Wada, Nobuo Nagano, Edward F. Nemeth.
Current Opinion in Nephrology and Hypertension 8:429-433, 1999.
199. Calcimimetics の薬理学的特性.
和田倫斎、古屋良宏、永野伸郎.
腎と透析 47:663-666, 1999.
200. Calcilytics 開発の可能性.
永野伸郎.
腎と透析 47:667-670, 1999.
201. NPS R-568 halts or reverses osteitis fibrosa in uremic rats.
Michihito Wada, Hiromi Ishii, Yoshihiro Furuya, John Fox, Edward F. Nemeth, Nobuo Nagano.
Kidney International 53:448-453, 1998.
202. Effects of chitosan-coated dialdehyde cellulose, a newly developed oral adsorbent, on glomerulonephritis induced by anti-Thy-1 antibody.
Mikio Yagi, Shinichiro Kato, Tsuyoshi Nishitoba, Hiromitsu Sato, Nami Kobayashi, Noriko Iinuma, Nobuo Nagano.
Nephron 78:433-439, 1998.
203. Beneficial effects of a novel inhibitor of platelet-derived growth factor autophosphorylation in the rat with mesangial proliferative glomerulonephritis.
Mikio Yagi, Shinichiro Kato, Yoshiko Kobayashi, Nami Kobayashi, Noriko Iinuma, Kazuhide Nakamura, Kazuo Kubo, Shin-ichi Ohyama, Hideko Murooka, Toshiyuki Shimizu, Tsuyoshi Nishitoba, Tatsushi Osawa, Nobuo Nagano.
General Pharmacology 31:765-773, 1998.
204. Long-term observation of glomerulonephritis induced by multiple injections with anti-Thy-1 antibody in rats.
Mikio Yagi, Tadashi Yamamoto, Shinichiro Kato, Nobuo Nagano, Itaru Kihara.
Pathology International 48:491-498, 1998.
205. Characteristics of lectin staining patterns assessed by a modified sensitive thermo-method in rat livers with heterologous serum-induced fibrosis.
Makoto Miyamoto, Noboru Manabe, Kozue Uchio, Keiko Kuramitsu, Kotaro Tamura, Yoshihiro Furuya, Nobuo Nagano, Hajime Miyamoto.
Journal of Veterinary Medical Science 60:953-960, 1998.
206. Quantitative physiology estimated by histochemical and structure-biological measurement.
Noboru Manabe, Yasuyoshi Azuma, Makoto Miyamoto, Keiko Kuramitsu, Yoshihiro Furuya, Nobuo Nagano, Hajime Miyamoto.
Reproductive Biology Update. Ed. by Hajime Miyamoto and Noboru Manabe (Shoukadoh Booksellers Co., Kyoto) pp469-481, 1998.
207. Lectin histochemistry in fibrotic liver disease.
Makoto Miyamoto, Noboru Manabe, Keiko Kuramitsu, Yukinobu Kurabayashi, Kotaro Tamura, Yoshihiro Furuya, Nobuo Nagano, Manabu Fukumoto, Hajime Miyamoto.
Reproductive Biology Update. Ed. by Hajime Miyamoto and Noboru Manabe (Shoukadoh Booksellers Co., Kyoto) pp483-490, 1998.

208. カルシウムセンサーに作用する薬剤の開発.
永野伸郎.
腎と骨代謝 11:53-60, 1998.
209. カルシウム(Ca)受容体に作用する薬剤の開発.
永野伸郎.
医学の歩み 184:206-207, 1998.
210. 細胞外シグナルとしてのイオン.(座談会).
松本俊夫、永野伸郎、宮本賢一、深川雅史.
腎と骨代謝 11:69-85, 1998.
211. Lectin histochemistry in rat liver fibrosis induced by heterologous serum sensitization.
Makoto Miyamoto, Noboru Manabe, Keiko Kuramitsu, Yukinobu Kurabayashi, Kotaro Tamura, Yoshihiro Furuya, Nobuo Nagano, Manabu Fukumoto, Hajime Miyamoto.
Journal of Veterinary Medical Science 59:681-687, 1997.
212. The calcimimetic compound NPS R-568 suppresses parathyroid cell proliferation in rats with renal insufficiency: Control of parathyroid cell growth via a calcium receptor.
Michihito Wada, Yoshihiro Furuya, Jun-Ichi Sakiyama, Nami Kobayashi, Sonoe Miyata, Hiromi Ishii, Nobuo Nagano.
Journal of Clinical Investigation 100:2977-2983, 1997.
213. 腎におけるCa-sensing receptorの生理学的意義.
永野伸郎.
医学の歩み 腎疾患—STATE OF ARTS— 95-98, 1997.
214. Immunohistochemical quantification of fast-myosin in frozen histological sections of goat hind limb muscles.
Noboru Manabe, Yukinobu Kurabayashi, Makoto Miyamoto, Keiko Kutamitsu, Yasuyoshi Azuma, Yoshihiro Furuya, Nobuo Nagano, Hajime Miyamoto.
Animal Science Technology 67:338-352, 1996.
215. An investigation on stability of chitosan-coated dialdehyde cellulose at physiological pH condition.
Hiroshi Yoshimoto, Tsuyoshi Nishitoba, Nobuo Nagano, Hiroshi Sato, Akemi Ichikawa, Toshio Izawa, Shi-Bing Jing, Tatsuaki Yamaguchi.
Chitin and Chitosan Research 2:9-15, 1996.
216. Immunohistochemical quantification of fast-myosin in frozen histological sections of goat limb muscles.
Noboru Manabe, Yasuyoshi Azuma, Yoshihiro Furuya, Keiko Kutamitsu, Yukinobu Kurabayashi, Nobuo Nagano, Hajime Miyamoto.
Animal Science 62:325-335, 1996.
217. Immunohistochemical microquantification of fast-myosin in frozen histological sections of mammalian skeletal muscles.
Noboru Manabe, Yasuyoshi Azuma, Yoshihiro Furuya, Keiko Kutamitsu, Nobuo Nagano, Hajime Miyamoto.
Journal of Animal Science 73:88-95, 1995.
218. 新規経口吸着剤キトサン被覆酸化セルロースの薬理学的特性(第1報) 正常ラットに対する作用.
吉本 宏、永野伸郎、西鳥羽 剛、佐藤広三、宮田そのえ、日下 多、景 世兵、山口達明.
日本薬理学雑誌 106:113-122, 1995.
219. 新規経口吸着剤キトサン被覆酸化セルロースの薬理学的特性(第2報) アドリアマイシン惹起進行性慢性腎不全ラットに対する作用.
永野伸郎、吉本 宏、西鳥羽 剛、佐藤広三、宮田そのえ、日下 多、景 世兵、山口達明.
日本薬理学雑誌 106:123-133, 1995.
220. 新規経口吸着剤キトサン被覆酸化セルロースの両側腎全摘出ラットに対する延命作用.
永野伸郎、吉本 宏、西鳥羽 剛、佐藤広三、宮田そのえ、景 世兵、山口達明.
キチン・キトサン研究 (Chitin and Chitosan Research) 1:183-187, 1995.
221. Immunohistochemical quantitation for extracellular matrix proteins in rats with glomerulonephritis induced by monoclonal anti-Thy-1.1 antibody.
Noboru Manabe, Yoshihiro Furuya, Nobuo Nagano, Mikio Yagi, Keiko Kuramitsu, Hajime Miyamoto.
Nephron 71:79-86, 1995.
222. Transient expression of type I collagen in glomeruli with anti-Thy-1 antibody-induced mesangial proliferative lesions.
Mikio Yagi, Tadashi Yamamoto, Nobuo Nagano, Shinichiro Kato, Masaru Kusaka, Katsutoshi Kawasaki, Eishin Yaoita, Itaru Kihara.
Pathology International 45:409-414, 1995.
223. Renal responses to atrial natriuretic peptide (ANP) in rats with non-oliguric acute renal failure induced by cisplatin.
Nobuo Nagano, Mikio Yagi, Shinichiro Kato, Yoshihiro Furuya, Sonoe Miyata, Noboru Manabe.
Journal of Veterinary Medical Science 57:997-1002, 1995.
224. Glomerular expression of TGF-β and extracellular matrix components in mesangial proliferative glomerulonephritis induced by multiple injections with anti-Thy-1 antibody in rats.
Mikio Yagi, Tadashi Yamamoto, Shinichiro Kato, Nobuo Nagano, Yukio Tokoro, Itaru Kihara.
Current Topics of Glomerular Mesangial Cells. Ed. by Makoto Uchiyama et al. (Kohko-Do, Niigata) pp22-31, 1995.
225. A new immunohistochemical method for quantification of fast-myosin in frozen histologic sections of the rat skeletal muscles.
Noboru Manabe, Yasuyoshi Azuma, Yoshihiro Furuya, Nobuo Nagano, Hajime Miyamoto.
Journal of Veterinary Medical Science 56:7-13, 1994.
226. Immunohistochemical microquantitation method for type I collagen in kidney histological section of rats.
Noboru Manabe, Yoshihiro Furuya, Nobuo Nagano, Hajime Miyamoto.
Journal of Veterinary Medical Science 56:147-150, 1994.
227. Effects of chitosan-coated dialdehyde cellulose, a newly developed oral adsorbent on normal and chronic renal failure rats.
Jin Shi-Bing, Nobuo Nagano, Tsuyoshi Nishitoba, Hiromitsu Sato, Sonoe Miyata, Toshio Izawa, Masaru Kusaka, Hiroshi Yoshimoto, Tatsuaki Yamaguchi.
Chinese Journal of Nephrology, Dialysis & Transplantation 3:83-88, 1993.
228. 腎性貧血動物モデル.
永野伸郎.
アニテックス (Laboratory Animal Technology and Science) 5:191-195, 1993.

229. マウスを用いた骨粗鬆症モデル.
保坂 努、和田倫斎、永野伸郎.
アニテックス (Laboratory Animal Technology and Science) 5:243-246, 1993.
230. Protective effect of antioxidants on paraquat-induced acute renal failure in mice.
Nobuo Nagano, Mikio Yagi, Koji Nishikori.
Japanese Journal of Pharmacology 59:481-483, 1992.
231. 囊胞腎マウスにおける貧血発症機序ならびにエリスロポエチンの貧血改善作用.
永野伸郎、小梅川純一、高橋久英.
アニテックス (Laboratory Animal Technology and Science) 4:321-326, 1992.
232. Anaemia in new congenital adult type polycystic kidney mice.
Jyun-ichi Koumegawa, Nobuo Nagano, Hirofumi Arai, Michihito Wada, Masaru Kusaka, Hisahide Takahashi.
Journal of Urology 146:1645-1649, 1991.
233. 抗貧血薬.
永野伸郎.
医薬品の開発. 鈴木郁生 編(廣川書店、東京) 第9巻 第8章 pp237-254, 1991.
234. Effect of recombinant human erythropoietin on new anaemic model rats induced by gentamicin.
Nobuo Nagano, Jyun-ichi Koumegawa, Hiroshi Arai, Michihito Wada, Masaru Kusaka.
Journal of Pharmacy & Pharmacology 42:758-762, 1990.
235. Effects of a new analog of thyrotropin-releasing hormone, N^α-[(S)-4-oxo-azetidinyl]carbonyl-L-histidyl-L-prolinamide dehydrate (YM-14673) on spinal reflex potentials and flexor reflexes in spinalized rats.
Hideki Ono, Nobuo Nagano, Mayumi Yamada, Hideomi Fukuda.
Neuropharmacology 29:69-74, 1990.
236. Different spinal effects of opioid agonists on spinal and spino-bulbo-spinal reflexes in rats.
Takeshi Suzuki, Nobuo Nagano, Hideki Ono, Hideomi Fukuda.
Journal of Neural Transmission 79:1-9, 1990.
237. KRN5702 の正常および腎性貧血モデルラットに対する赤血球造血作用.
荒井弘文、蒲谷浩司、永野伸郎、川岸真由美、日下 多.
基礎と臨床 22:5531-5546, 1988.
238. 抗アレルギー薬 Tazanolast (Butyl 3'-(1H-tetrazol-5-yl) oxanilate, WP-833) および代謝物 3'-(1H-tetrazol-5-yl) oxanilic acid (MTCC) のラットの脳波および脊髄反射に対する作用.
福田英臣、小野秀樹、長谷部也寸志、永野伸郎.
応用薬理 36:401-407, 1988.
239. Effects of L-threo-dihydroxyphenylserine on spinal reflexes and decerebrate rigidity in rats.
Hideki Ono, Mitsuo Tanabe, Takeshi Nakamura, Nobuo Nagano, Hideomi Fukuda.
General Pharmacology 19:369-372, 1988.
240. Functional significance of subtypes of 5-HT receptors in the rat spinal reflex pathway.
Nobuo Nagano, Hideki Ono, Hideomi Fukuda.
General Pharmacology 19:789-793, 1988.
241. Inhibitory effect of phencyclidine on rat spinal reflexes.
Nobuo Nagano, Hideki Ono, Hideomi Fukuda.
General Pharmacology 19:795-798, 1988.
242. The spinal reflex of chronic spinal rats is supersensitive to 5-HPT but not to TRH or 5-HT agonists.
Nobuo Nagano, Hideki Ono, Miho Ozawa, Hideomi Fukuda.
European Journal of Pharmacology 149:337-344, 1988.
243. Sensitivity of spinal reflexes to TRH and 5-HT in 5,6-dihydroxytryptamine-treated rats.
Nobuo Nagano, Hideki Ono, Miho Ozawa, Hideomi Fukuda.
European Journal of Pharmacology 139:315-321, 1987.
244. TRH のラット脊髄反射に対する作用 一TRH 含量との関連および TRH とセロトニンとの相互作用について一.
永野伸郎、小沢美穂、小野秀樹、福田英臣.
臨床薬理 18:295-296, 1987.
245. Carbacyclin 誘導体 Sodium (1S,2S,3R,5S,7E)-2[(1E,3S,5R-5,9-dimethyl-3-hydroxy-1,8-decadienyl]-3-hydroxy-7-(4-carboxylactobutylidine)-[3.3.0]-bicyclooctane (CS-570) の中枢神経系および運動系に対する作用.
福田英臣、小野秀樹、松本欣三、鈴木岳之、中村 健、森 智博、永野伸郎、佐藤光利、田辺光男、三島昭弘、山崎 純.
応用薬理 32:889-899, 1986.
246. Enkephalin but not morphine modulates the motor activity in the frog spinal cord in vitro.
Takeshi Suzuki, Jun-ichiro Oka, Nobuo Nagano, Hideomi Fukuda.
Comparative Biochemistry and Physiology 83C:245-251, 1986.